

決算説明資料

2015年3月期

JASDAQ
Listed Company 4241

2015年5月
株式会社アテクト

2015年3月期業績要約

業績の要約

atect

(百万円)

| | 2014年3月期 | 2015年3月期 | 前年度比(%) |
|-------|----------|----------|---------|
| 売上高 | 2,500 | 2,361 | 94.5% |
| 売上総利益 | 1,177 | 1,110 | 94.3% |
| | 47.1% | 47.0% | |
| 営業利益 | 257 | 206 | 80.4% |
| | 10.3% | 8.8% | |
| 経常利益 | 272 | 249 | 91.3% |
| | 10.9% | 10.5% | |
| 純利益 | 145 | 125 | 86.6% |
| | 5.8% | 5.3% | |

減収・減益とはなりましたが、営業利益率8.8%、経常利益率10.5%と高水準を維持しております。

※平成27年度税制改正(法人税実効税率の引き下げ及び欠損金の控除限度額の縮小)に伴う繰延税金資産の取崩しにより純利益は減益となりましたが、当社の財務健全性を確保するものであり、実際のキャッシュフローに影響を与えるものではありません。

減収減益の主な理由

1. 上半期の半導体資材事業における改良タイプスペーサーテープ
買い控え
2. 検査試薬事業の売上未達と立上遅延による費用増加

リカバリー策

1. PIM事業初の売上1億円突破、営業利益過去最高更新
2. 利益率の高い培地製品、重点販売
3. 4K対応高品質スペーサー開発に成功
⇒下期受注急回復、台湾新規顧客獲得
4. 1年8ヶ月間高騰の続いたPS材大幅値下げ(原油安・国内調達)
5. 新生産ライン完全導入によりシャーレ外注費用ゼロ化
6. 2015年2月度以降検査試薬事業黒字化

セグメント別業績

atect

(百万円)

| セグメント | | 2014年3月期 | 2015年3月期 | 前年度比(%) |
|--------|------|----------|----------|---------|
| 半導体資材 | 売上高 | 916 | 736 | 80.4% |
| | 営業利益 | 132 | 75 | 56.9% |
| 衛生検査器材 | 売上高 | 1,540 | 1,499 | 97.4% |
| | 営業利益 | 108 | 132 | 121.6% |
| PIM | 売上高 | 65 | 102 | 156.9% |
| | 営業利益 | 15 | 30 | 191.6% |
| 検査試薬 | 売上高 | - | 42 | - |
| | 営業利益 | - | -31 | - |

半導体資材事業は改良型スぺーサーテープ買い控えにより減収減益となりましたが、衛生検査器材事業及びPIM事業においては大幅な増益となりました。また、検査試薬事業においては第4四半期2月度より黒字転換致しました。

2016年3月期業績見通し

2016年3月期業績見通し

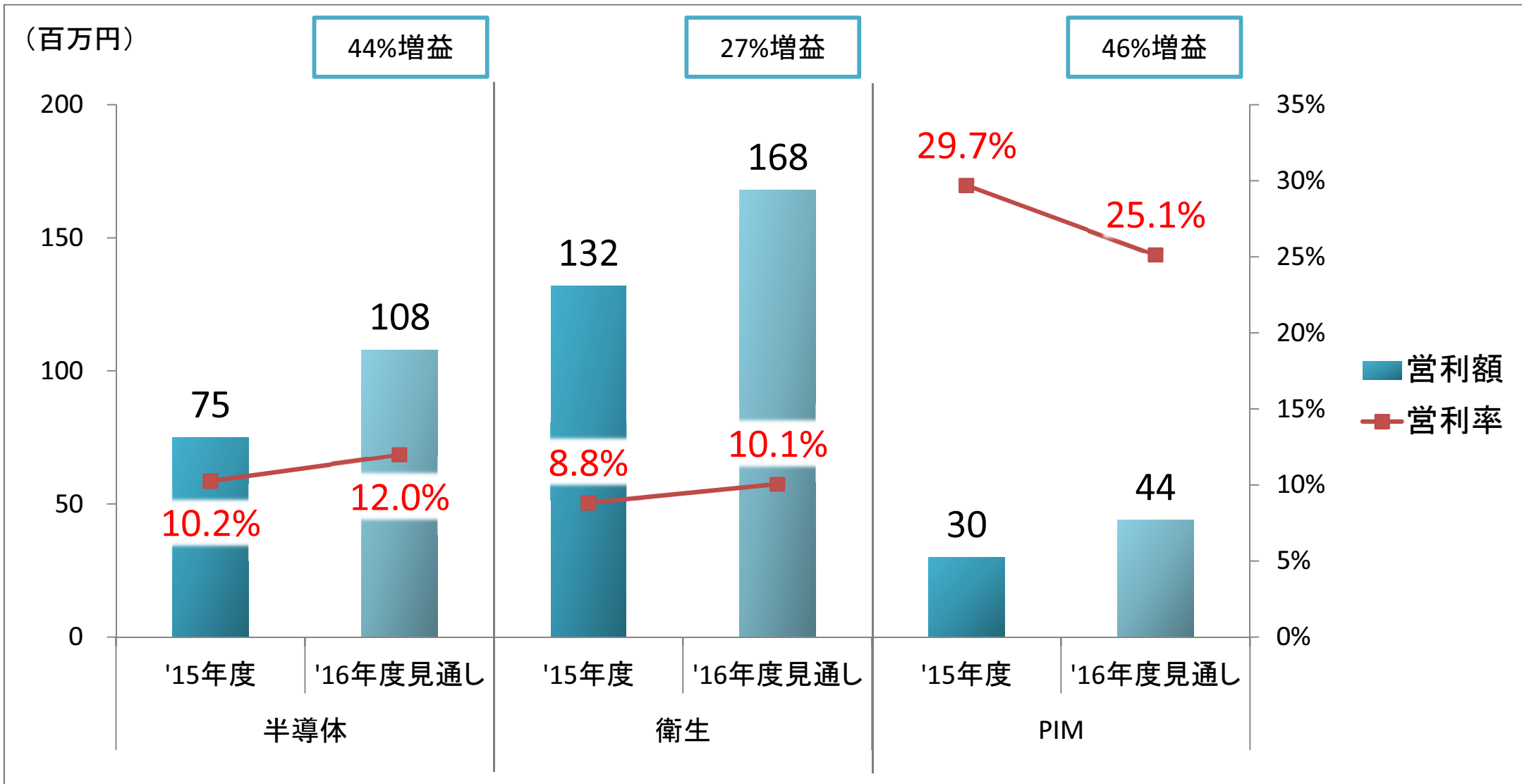
atect

(百万円)

| | 2015年3月期 実績 | 2016年3月期 業績見通し | 増減率(%) |
|-------|----------------|-------------------|--------|
| 売上高 | 2,361 | 2,750 | 116.5% |
| 営業利益 | 206 | 320 | 155.3% |
| | 8.8% | 11.6% | |
| 経常利益 | 249 | 290 | 116.5% |
| | 10.5% | 10.5% | |
| 当期純利益 | 125 | 210 | 168.0% |
| | 5.3% | 7.6% | |

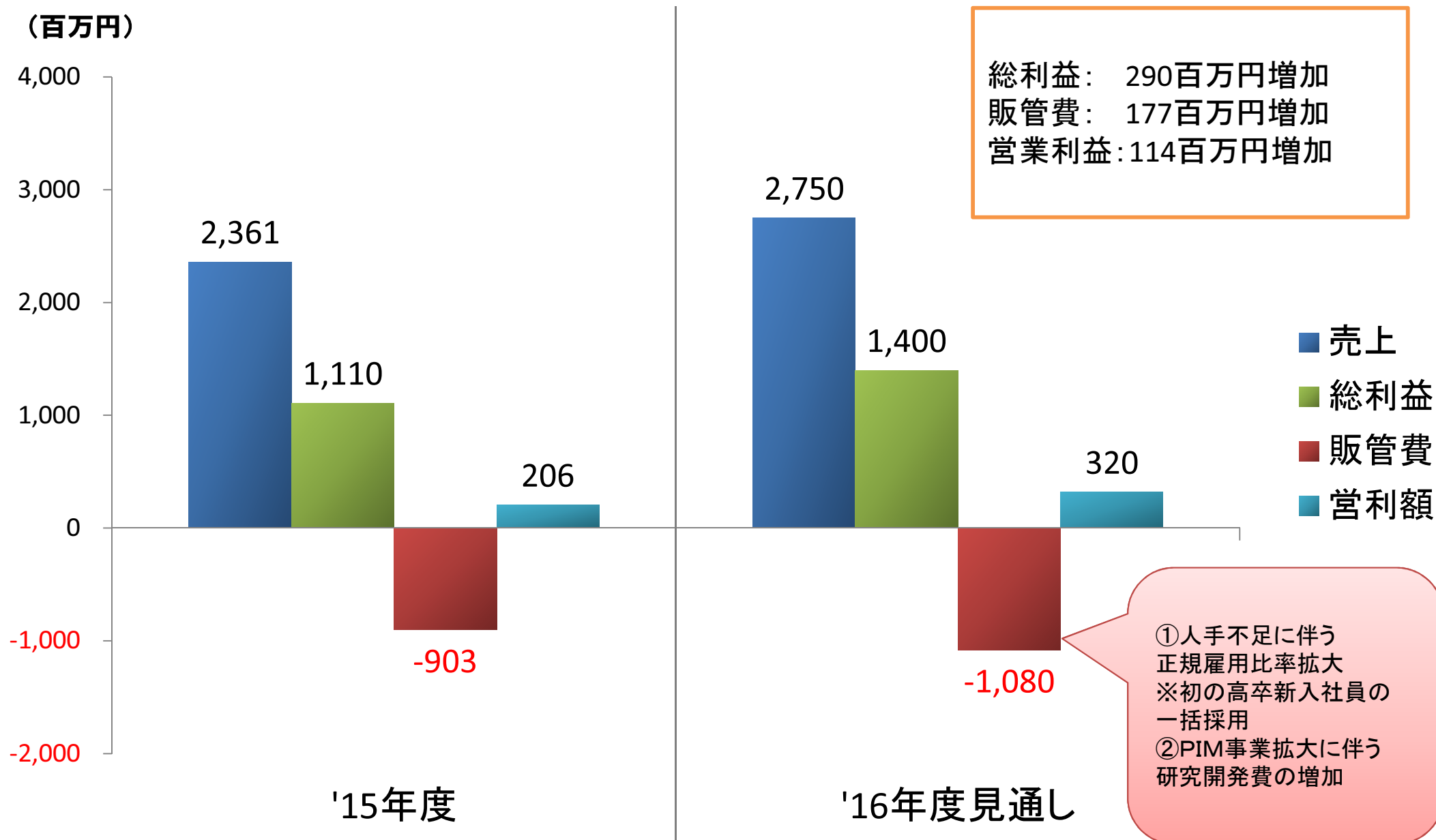
売上高388百万円(116.5%)の増収、営業利益113百万円(155.3%)の増益

2015年度vs2016年度【セグメント別】

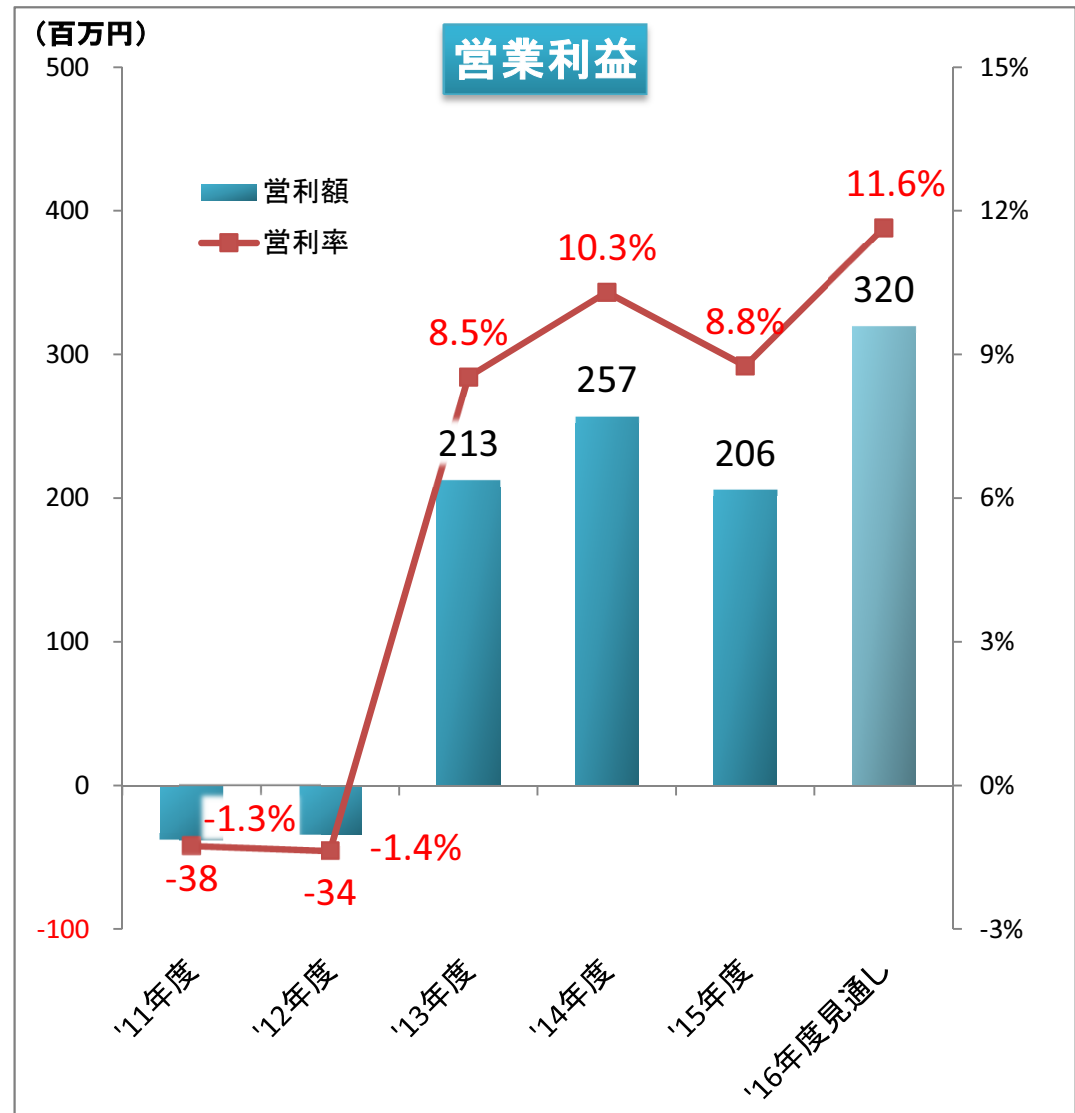
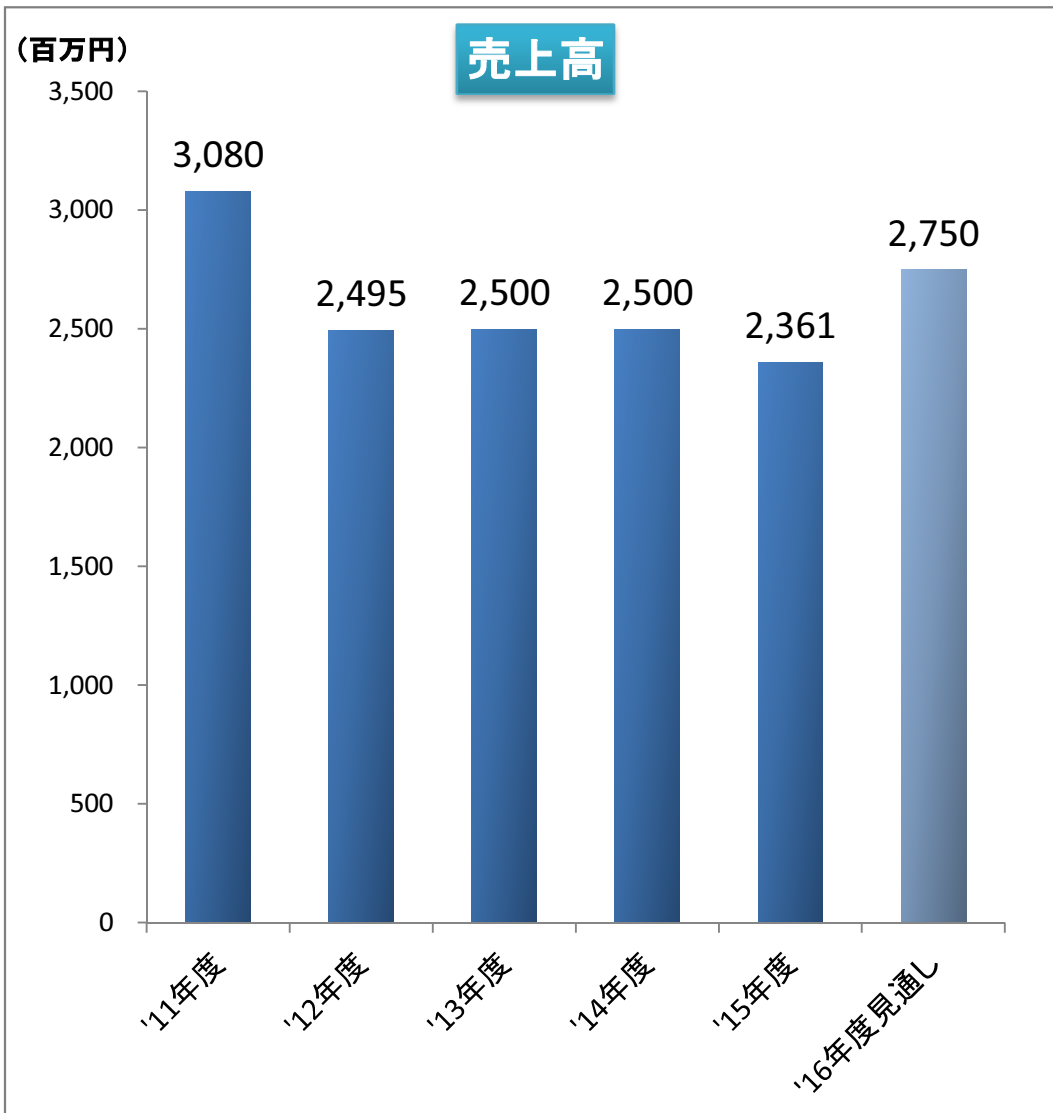


3セグメント全てにおいて大幅な増収増益の見通しです

2015年度vs2016年度【連結】

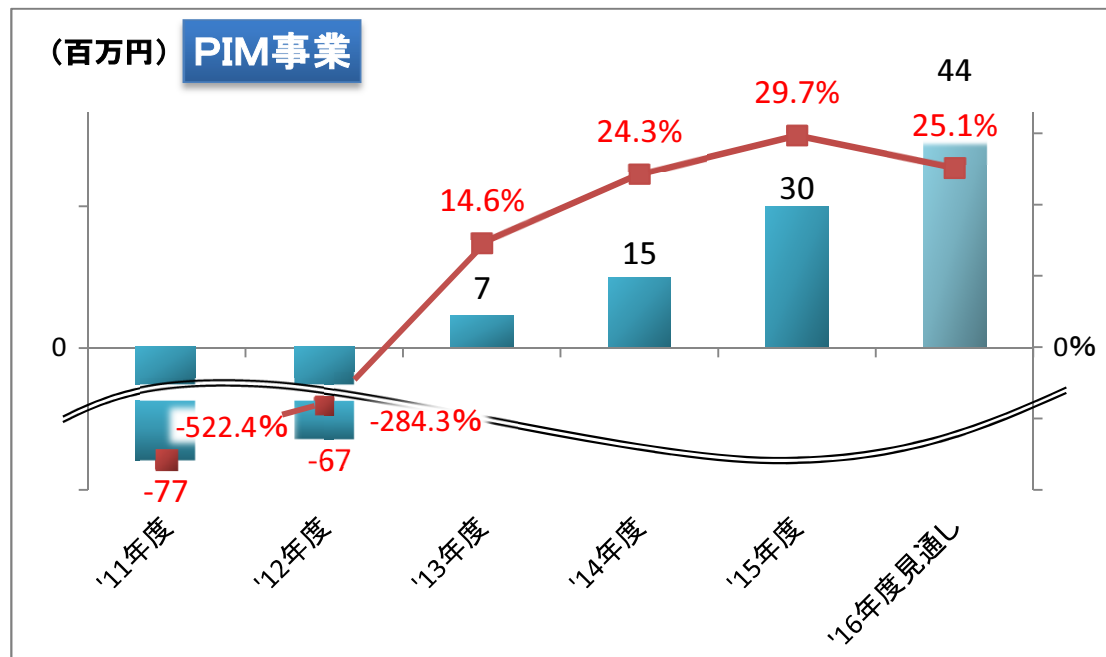


売上高・営業利益推移及び見通し



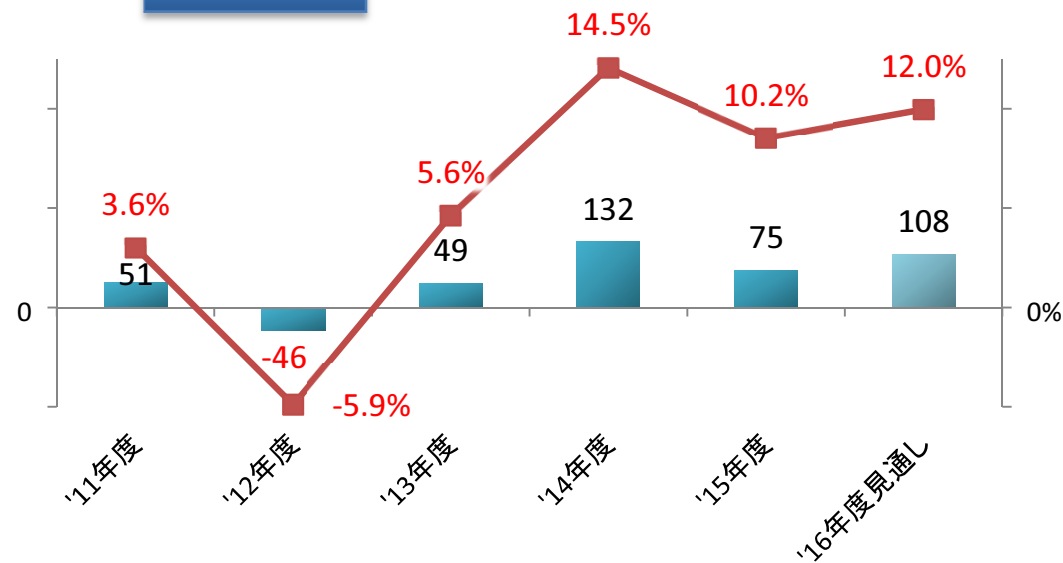
営業利益：32百万円、営業利益率11.6%⇒過去最高益を狙います

【セグメント別】営業利益推移及び見通し



■ 営業利益額
■ 営業利益率

(百万円) **半導体資材**

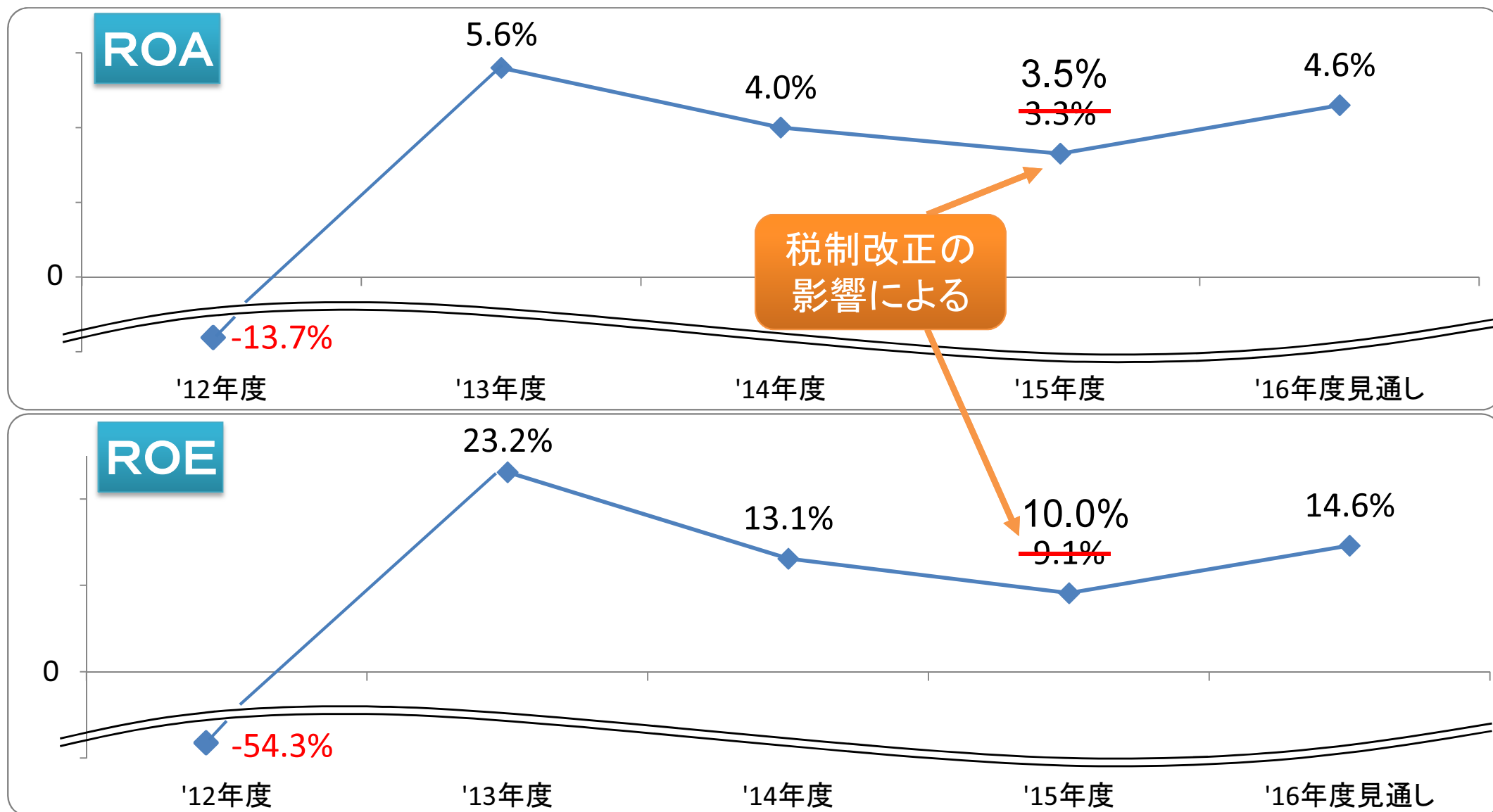


(百万円)

衛生検査器材

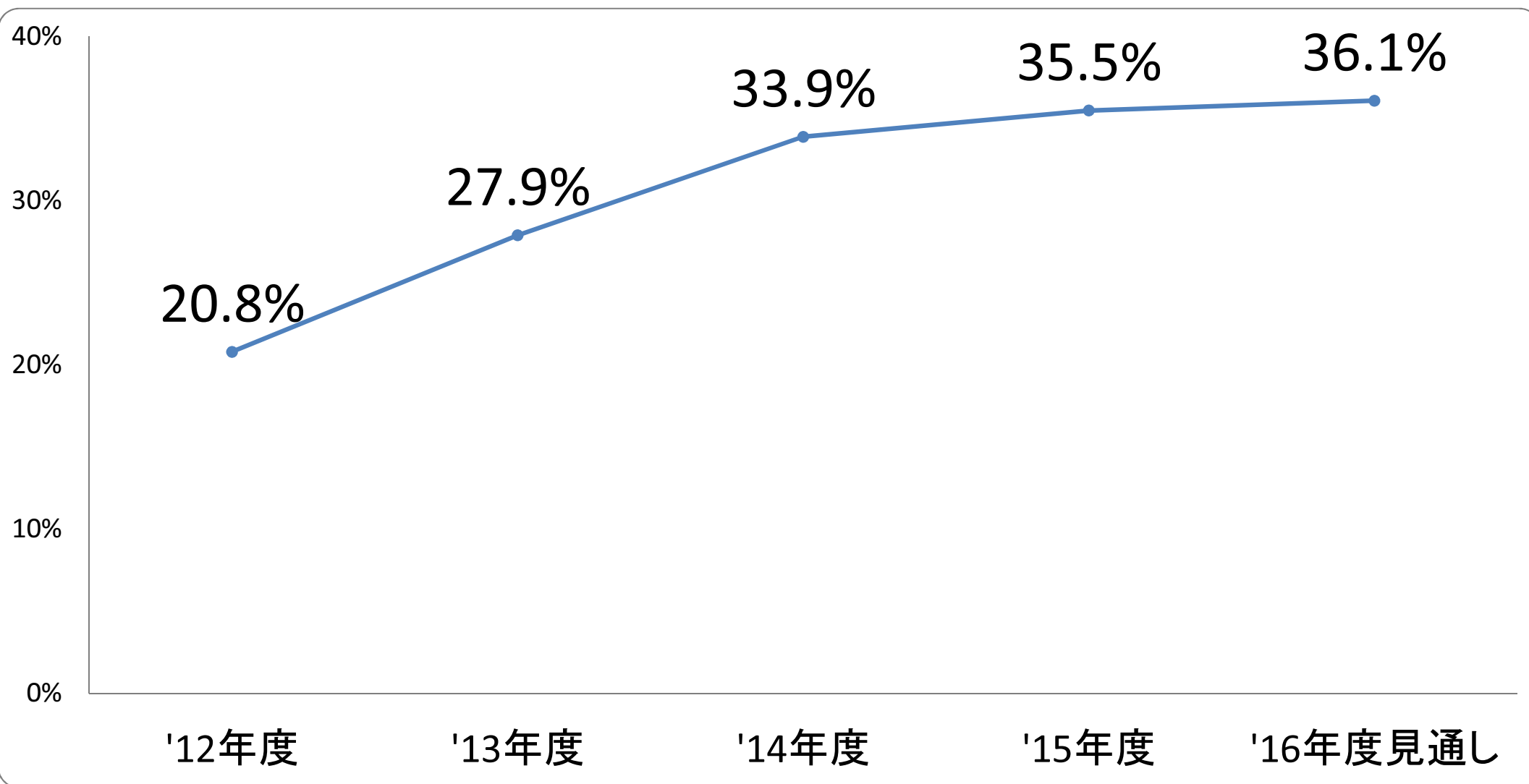


ROA・ROE推移及び見通し



『ROE経営』をスローガンに15%以上を目指します

自己資本比率推移及び見通し



第一次構造改革以降、確実に改善しております

PIM事業

- ・材料拡販に加え付加価値の高い焼結品の量産・販売を開始
- ・自動車部品（ターボチャージャー用部品、内燃機関部品）販売の具体化

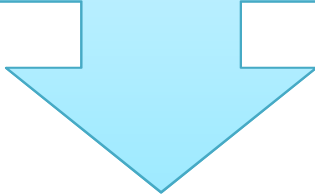
半導体資材事業

- ・4K対応高品質スペーサーテープによる売上復活
- ・日本生産回帰による円安効果の獲得

衛生検査器材事業

- ・PS材価格の大幅下落と新生産ラインの償却費減（シャレ1億円原価低減）
- ・検査試薬事業を既存事業に吸収することによるシナジー効果

第一次構造改革
(生産変革活動による原価低減活動)
→3期連続の高収益確保



第二次構造改革(守りから攻めへ)
→次世代事業での拡大(成長路線)

拡大成長戦略(各セグメント別売上イメージ)

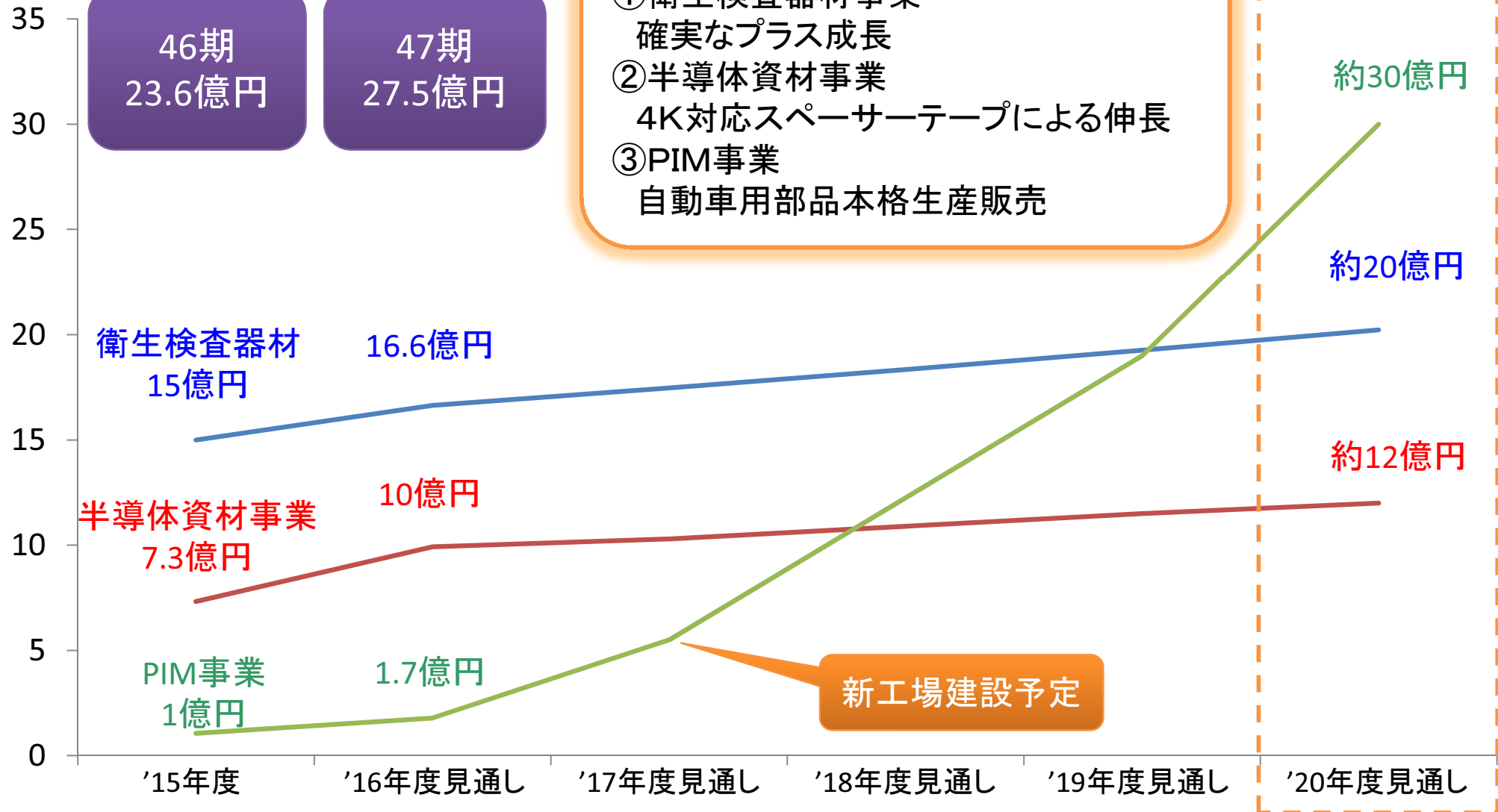
(億円)

46期
23.6億円

47期
27.5億円

- ①衛生検査器材事業
確実なプラス成長
- ②半導体資材事業
4K対応スパーサーテープによる伸長
- ③PIM事業
自動車用部品本格生産販売

ターゲット



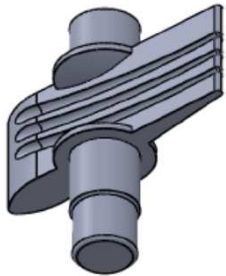
新工場建設予定

PIM製品：自動車用部品で拡大

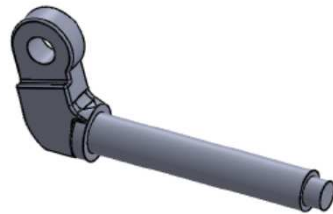
○国内自動車メーカーのダウンサイジングターボへのシフト

過給機(ターボチャージャー) 部品

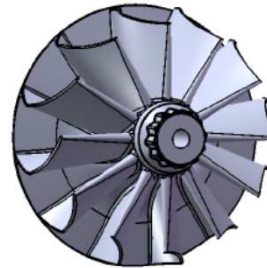
ノズルベーン



ウエストゲートバルブ



ローター



耐熱性能に優れたインコネル713を使用し
PIM製法で製作

インジェクター部品

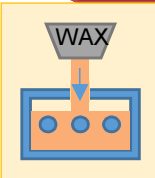
バルブシート



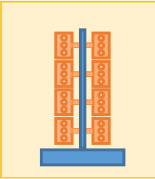
超高精度
2次加工レス

PIM製品：従来工法との比較

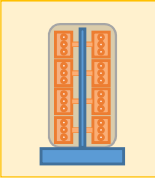
従来製法：真空鑄造法 (ロストワックス法)



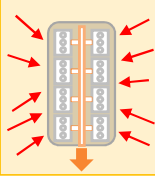
1. 金型に蠟(ワックス)を流し込み



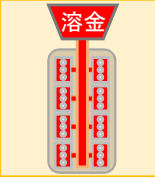
2. 蠟型を作成しツリーを作成



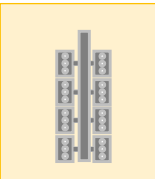
3. その蠟型を砂型などでかたどって



4. 蠟を熱で溶かして流し出し



5. 空洞の空いた鑄型(砂型)に溶融金属を流し込む



6. 鑄型(砂型)を壊して製品を取り出し二次加工へ

PIM製法



0. 材料(バインダー・フィードストック)、金型は全て自社製



1. 射出成形



2. 脱脂・焼結



3. 完成

二次加工、低歩留まりによるロスを排除かつ軽量化、薄肉化など設計自由度向上

B₄C(炭化ホウ素)

ダイヤモンドやc-BNに次ぐ、高い硬度を有するB₄C(セラミックス)焼結体を得ることに成功。ビッカース硬度で28GPa(ダイヤモンド:70GPa・SiC:22GPa)を確保、最終的にはSiCをはるかに凌駕する30GPa以上を目指します。

(用途)

一般的には研磨材やスピーカー振動板などに使用されて来ましたが、PIM製法により、様々な分野への応用が期待されると考えております。当社では、自動車用燃料噴射ノズルなどの小型耐摩耗部材や既にSiCで実用化されているセラミックスボールベアリングなど、高硬度・耐摩耗を要する部品への展開を進めて参ります。

異種材料複合成形

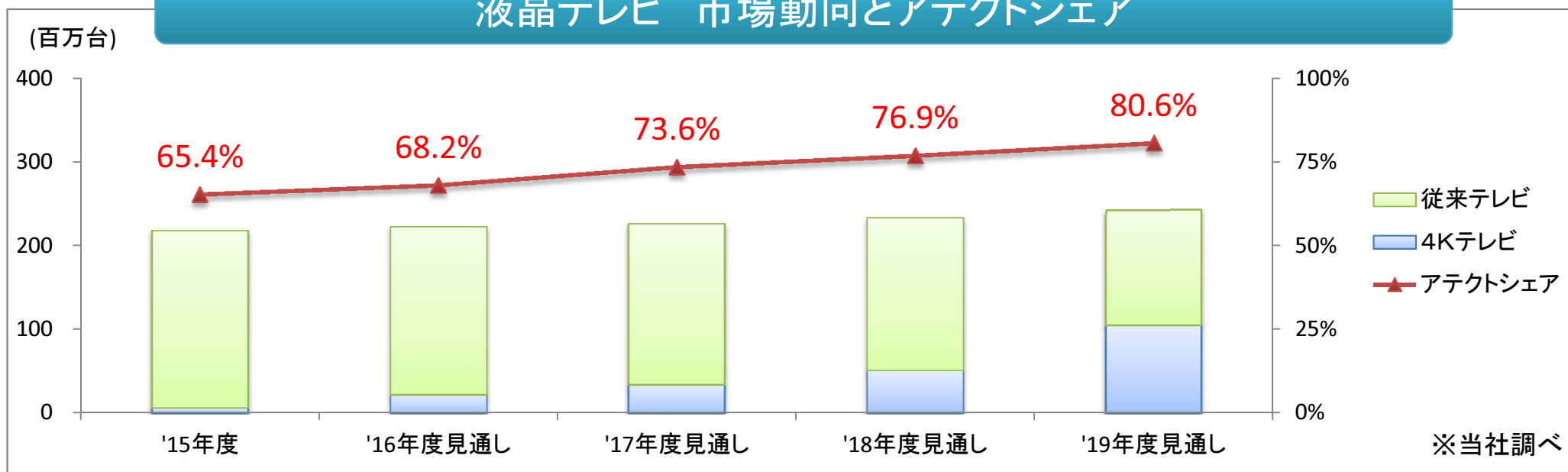
金属とセラミックス、導電材料と絶縁材料、磁性材料と非磁性材料など異種 of 材料を一体化して成形し、新しい機能性材料として成形・焼結することに成功いたしました。

粉末粒径やバインダー配合比を最適化する事によって焼結時の収縮をコントロールし、さらに金型の温度パターン制御を駆使する事より各素材の異種材料間の接合面の密着強度を各素材が持つ最高レベルまで引き上げる事に成功。

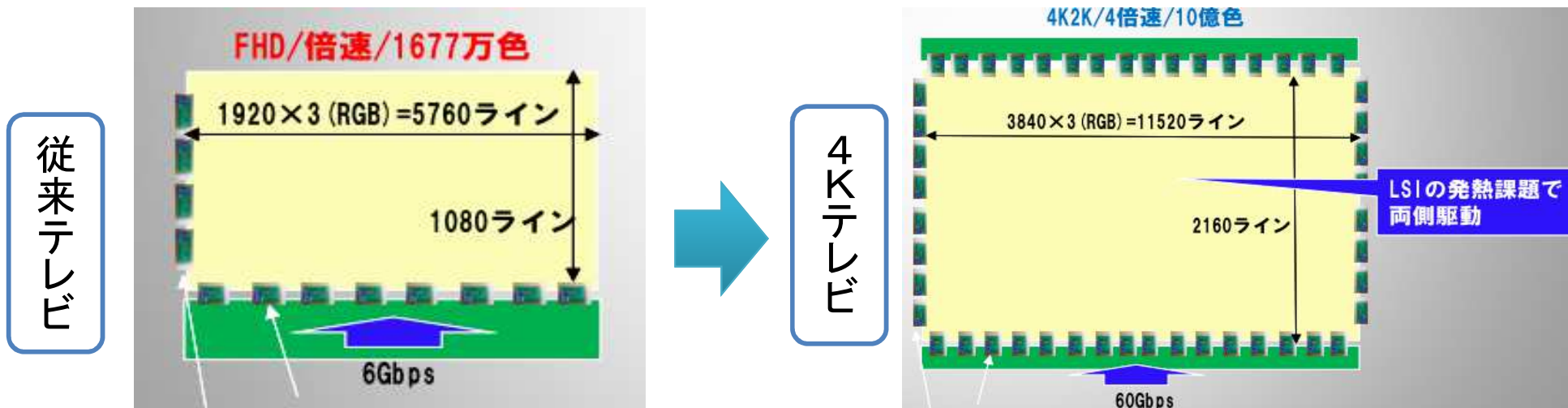
(用途)

導電材料と絶縁材料を組合わせたセンサー部品やトランスデューサー部品、磁性体・非磁性体を組み合わせた電磁クラッチやモーター部品や異なる色や素材のセラミックスを組合わせた宝飾品などこれまでは不可能であった高機能部品への展開を進めてまいります。

液晶テレビ 市場動向とアテクトシェア

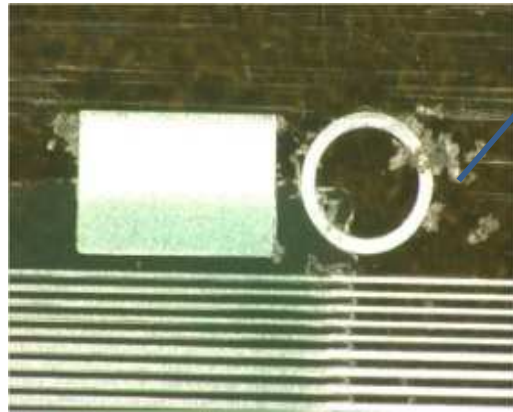


4Kテレビ1台あたりのスペーサー使用数量は従来テレビに比べ約2.5倍に増加
⇒当社スペーサーテープ使用量は20%増加見込み



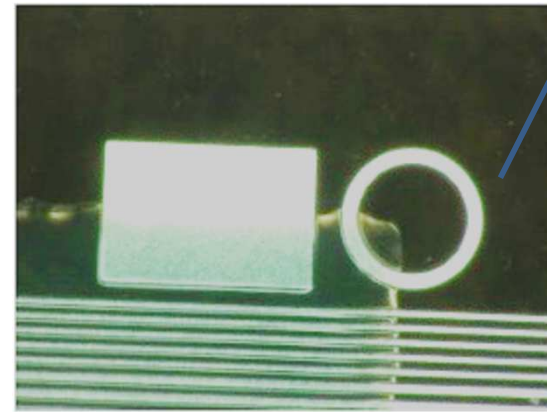
6年振りのフルモデルチェンジ⇒4K対応の新製品

旧モデル: JD



4Kの場合、
アライメントマークとの
擦れによる
ハガレ異物の
影響大

新モデル: SJD



新開発コーティング
による強度アップ[°]
により異物激減

新生産拠点である日本生産開始(生産比率⇒日本:韓国=7:3)

日本製造



韓国製造

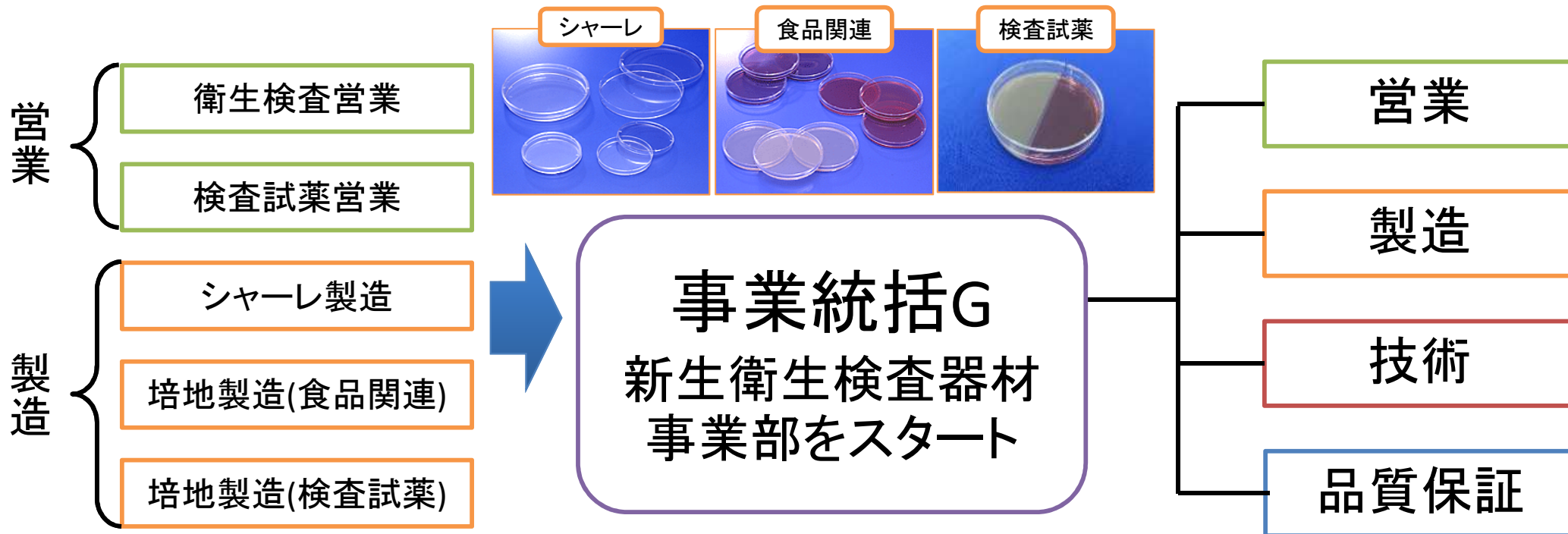


シャーレ事業 原価低減

| 原価低減内容 | 低減額 | (円) |
|-------------|------------|-----|
| PS材価格下落 | 70,000,000 | |
| 新生産ライン償却費減 | 9,400,000 | |
| 合理化効果 | 8,100,000 | |
| 新型シャーレ | 7,000,000 | |
| 歩留り100%活動効果 | 3,600,000 | |
| 原動費削減 | 1,000,000 | |
| 合計 | 99,100,000 | |

衛生検査事業に検査試薬事業を統合

事業統括グループによる一元化



シナジー効果

- 販売・生産の一本化による固定費の圧縮・既存生産ライン(培地)、既存シャーレ成形ライン(同一金型)の活用による投資の最小化、省人化
- 技術・品質保証の統合

今後は統合された新生衛生検査器材事業により増収増益を目指します

免責事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社アテクト 総務・人事部 IR担当

TEL:072-967-7000

E-mail:ir@atect.co.jp